

2月定例記者会見の概要

1 日 時 令和4年2月9日（水）9時30分～10時30分

2 場 所 本庁舎4階 議場

3 出席者 <報道機関>

- ① 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑤ みなみそうまチャンネル

計 5 社

< 市側 >

・市長

(テレビ会議)

- ・林副市長・常木副市長・教育長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナウイルス対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部長・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 16 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

それでは、前回1月5日の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、南相馬市長への就任についてです。

1月23日に行われた南相馬市長選挙の結果、第5代南相馬市長に就任いたしました。再び、市政を付託されたことに、感謝と責任の重さを感じています。

そして、まず、私事ではございますが、新型コロナウイルスへの感染について、ご説明とお詫びを申し上げます。市長選の最中、選挙事務所においてコロナ感染者が確認され、私自身も1月19日にPCR検査の結果、新型コロナウイルス感染症の陽性が確認されました。この間、私自身の健康状態、公務の状況については、市ホームページでお知らせした所ではありますが、市民の皆様には市政運営等にご心配をおかけいたしましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

1月19日から、二期目の任期開始日である29日を挟んで30日までは、電話やウェブを利用して公務に従事し、1月31日からは通常どおり登庁して業務を行っております。これからの4年間全身全霊で職務に取り組んでまいります。

二期目の抱負としては、まず、喫緊の最重要課題である新型コロナ対策に取り組

んでまいります。

さらに、政策目標である「100年のまちづくり 家族や友人と暮らし続けるために」を実現するため、現在住んでおられる若年者から高齢者まで、市民の皆様が安心して暮らし続けるための施策に取り組みます。

加えて、安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる総合的なサポート、家庭環境に関わらず、すべての子供への学ぶ機会や環境の提供、市内企業の新たな挑戦に対する人づくりと環境整備への支援、若い世代に選ばれるまちづくり、移住定住などの環境づくりに取り組み、コロナ収束後を見据え、人口減少や超高齢化社会の中で挑戦するまちづくりを進めてまいります。

市民の皆様、国や県の関係機関の皆様と対話によって力を合わせる姿勢を基本として、丁寧な市政運営を行ってまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

次に、新型コロナウイルス感染症についてです。

最初に、市内の感染状況についてです。

1月5日から2月8日までの35日間で204名の新規陽性者が発表されました。医療機関や介護老人保健施設でクラスターが発生するなど、市内では年明け以降、オミクロン株が原因とみられる感染拡大の第6波が急速な勢いで進みました。

市では感染者の急増を受け、1月14日から市主催イベントの中止や延期、1月18日から公共施設の利用制限を行いました。

さらに、1月21日から県の集中対策が実施されましたが、感染収束には至らず、1月27日から政府による「福島県まん延防止等重点措置」が適用されました。

また、市では、感染拡大の第6波を見越して、PCR検査体制の確立や療養施設の確保などに取り組んでまいりました。

まず、無症状の方の日常生活における不安解消や経済活動の活性化のため、1月6日から南相馬市PCR検査センターの運用を開始し、土日祝日の臨時開設や検査枠の拡大など利便性向上に努めてきました。これまでに検査を受けた方の人数は、2月7日時点で、合計3,379人、一日平均106人となります。

また、無症状者や軽症者が多数発生することに備え、県と協議を進めておりましたが、市内のホテルサンエイ様にご協力いただけることになり、1月21日に、相双地方で初となる、軽症者向けの宿泊療養施設が開設されました。

本市における人口10万人あたりの1週間の新規陽性者数の推移をみますと、1月上旬から増え始めた感染者数は、1月下旬にピークを迎え、2月に入ってから、陽性者数が若干減少するなど、ほぼ横ばいで推移している状況です。

1月下旬以降、福島県内で感染者が急増する中、南相馬市は感染が踏みとどまっている状況であると捉えています。

市民や事業者の皆様には、医療提供体制の崩壊等を防ぐためにも、基本的な感染対策であるマスクの着用、こまめな換気、人と人との距離の確保など感染対策を徹底いただき、不安があるときは積極的にPCR検査センターをご利用いただくなど、引き続き、感染拡大防止にご協力くださいますようお願い申し上げます。

次に、企業との連携協定についてです。

まず、2月8日に、市内ベンチャー企業への資金面での支援などを目的として、第3期となるベンチャーキャピタルや金融機関等との連携協定を締結しました。今回は、6社と新たに協定を締結いたします。今回を含め協定を締結した金融関連

の機関は、合計 35 社となります。

すでに、ベンチャーキャピタルからの出資や銀行からの融資、投資型クラウドファンディングでの資金調達に成功した事例などの成果もでてきており、今回の連携協定は、このような動きを加速させるものと期待しております。

次に、本日 2 月 9 日に市はインターステラ テクノロジズ株式会社との連携協定を締結し、オンラインによる協定式を開催いたします。

インターステラ テクノロジズ株式会社は、市内でロケットの開発を進めている企業です。協定の締結により、市は開発場所を提供し、同社は市内のものづくり企業などと協力して、市内でのロケット・人工衛星部品製造等の事業拡大を通じて市内産業の活性化を目指します。

続いて、今後の主な話題について触れたいと思います。

最初に、ワクチン接種についてです。

65 歳以上の方を対象とした追加接種は、1 月 24 日に開始し、2 月 8 日時点で 7,580 名の集団接種が完了しています。接種完了は、2 月 26 日を予定しています。

次に 60 歳から 64 歳の方と基礎疾患をお持ちの方を対象とした追加接種については、2 月 18 日に接種券を送付し、2 月 28 日から集団接種を開始、3 月 5 日に完了する予定です。

59 歳以下の方を対象とした追加接種については、2 月 25 日から 3 月 11 日までに接種券を順次送付し、3 月 7 日から集団接種を開始、3 月 26 日に完了する予定です。

事前の意向調査でファイザー社又は武田/モデルナ社製のどちらのワクチンを選ぶかご希望を伺っておりますが、ワクチンの種類に関わらず効果に問題はなく、副反応の安全性にも大差はないと言われております。早期にワクチンを接種し感染や重症化を予防することが大切ですので、1.2 回目と 3 回目の接種で、異なるワクチンを打つ交互接種についてご検討いただき、早期の接種にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

【質疑応答】

質問 1 :

PCR 検査センターについて、市内及び市外利用者の内訳を教えてください。

回答 1 : 健康福祉部新型コロナ対策担当理事

利用者 3,379 名のうち、市内の方が 2,267 名、市外の方が 1,112 名です。市外の利用者のうち県内の方が 891 名、県外の方が 221 名となります。

質問 2 :

PCR 検査センターの利用者のうち、陽性が確認された方は何名ですか。

回答 2 : 健康福祉部新型コロナ対策担当理事

2 月 7 日時点で、陽性が確認された方は 33 名おり、そのうち市内の方が 17 名、市外の方が 16 名です。

質問 3 :

市政報告の中で「感染が踏みとどまっている状態」と説明されましたが、その理

由や背景について、どのようにお考えですか。

回答3：市長

オミクロン株は感染力が強く、感染を完全に防ぐことは困難だと考えています。

感染状況をみますと、感染経路不明の方から家族を中心に感染が拡大し、わずかですが、市内でクラスターに至るケースもありました。そのような状況の中で、マスクの着用や人との距離をとるなど基本的な対策の積み重ねが感染の拡大を防いでいると思います。

本市では県による集中対策など早い段階で感染対策を講じてまいりましたが、やはり市民の皆様の心構えによるところが大きいと考えています。

加えて、PCR検査センターで無症状の方の感染を早期に確認できたことも、若干は寄与しているのではないかと思います。

質問4：

まん延防止等重点措置の適用期間の延長について、どのようにお考えですか。

また、県内及び市内で飲食店におけるクラスターがほとんど発生していないにも関わらず、飲食店のみに時短営業を求めていることについて、どのようにお考えですか。

宮城県が過去最高の感染者数を記録しながら、まん延防止等重点措置を適用せず、飲食店に時短営業を求めていることについて、どのようにお考えですか。

回答4：市長

今は感染が踏みとどまっている状況ですので、このまま収まればよいと思っております。ただ、一人の感染者からクラスターが発生する可能性もあるため安心はできません、しっかりと推移をみていきたいと思っております。今は適用期間の延長を要請する状況ではありませんが、決して楽観はできません。今後の状況次第では、延長の要請もありうるかと考えています。

県内及び市内で飲食店におけるクラスターが少ないことは理解しております。ただ、飲食でマスクを外す機会に感染のリスクが高まるといわれており、時短営業にご協力いただいているからこそ、現在の感染状況で済んでいるとみております。

まん延防止等重点措置の適用については、各自治体の判断によると思っております。私個人としては、医療機関の負担の問題もありますし、感染者の中には肺炎を起こすなど重症化する方もいますので、対策を講じた方がよいと考えています。

質問5：

5歳から11歳を対象としたワクチンの具体的な接種方法は決まっているのでしょうか。また、接種はスケジュールどおり3月中旬から開始されるのでしょうか。

回答5：健康福祉部新型コロナ対策担当理事

現在、医師会、総合病院等と協議を進めており、保健福祉センター等での接種を検討中です。3月中旬から接種を開始できるよう準備をしております。

回答5：市長

保健福祉センターに来ていただくことを基本に協議をしていますが、まだ最終決定はしていません。

5歳から11歳の対象者は約2,500人おり、5,000回分のワクチンが必要ですが、

3月中に供給されるワクチンの量は500人分、1000回分の予定です。現時点でワクチン接種を希望している方が500人以上いる状況です。南相馬市は集団接種の為、ワクチンの配分予定が分からないと医師会と調整ができないことから、昨日の市長会で知事にワクチンの配分予定を早期に示していただくよう要請したところです。

回答5：健康福祉部新型コロナ対策担当理事

5歳から11歳の対象者約2,500名の保護者を対象に行った意向調査については、2月7日までに1,380名の方から回答をいただいております。現時点で、南相馬市で接種を希望する方が910名65.9%、他市町村で接種を希望する方が31名2.2%、状況を踏まえ判断したい方が364名26.4%、接種を希望しない方が75名5.4%となっております。

質問6：

意向調査で「状況を踏まえ判断したい」を選んだ364名の方は、今の段階では判断できないという意味ですか。

回答6：健康福祉部新型コロナ対策担当理事

現時点で接種する・しないを判断できないということです。

以上